



直接行動と共同体

白井 彦

政治的日常生活での用字

① 99号一面の杉原論文は、自連アフレートから抜粋し引用したものの小文などによって、きわめて実証的に今日の状況をあきらかにしている。そしていま私たちが当面する人共団体運動の非政治性（反政治性）と、晩政治的心情（政治的日常生活からの逃亡）の問題に照明を与えたものだ。それは自連11号で、69年11月以降の停滞状況からの脱出として、いちばやく共同体をさし示したその正しさゆえの責任として、どうしても今日書かれねばならぬ自連の自己批判でもあった。

だが、そのような今日の共同体運動の「疑似状況」を、どのように打開するかを語る最も重要な部分が「補記」として示唆的に扱われたまま未見におわっている。本稿はそれをつけて、人生活身の微視的状況の要約によって、政治的日常生活との関わりを見出すことと、共同体との関係をふまえたと思う。

直接行動の日常性

② 人共同体運動とは、人日常生活のレベルで対峙して、非暴力としての「即ち自分たちの生活空間を創り出そうとする」社会運動といえるだろう。

③ 人日常生活のレベルで対峙していることは、革命運動（社会変革）といつてもよい。行為を、微視的な身近生活日常のなかにおく、ということだ。それは、自己内部の生活革命であるだけでなく、例外なく市民一般が

かかっている人政治的日常生活に對峙する、ということだ。

④ 人政治的日常生活とは言うまでもなく、市民社会秩序のなかの吾々の日常であり、みえない暴力構造の我々の人疑似非暴力的日常のこのことである。それゆえ人政治的日常生活に對峙するとは暴力秩序に對して共同体的秩序をすなわち暴力非暴力の日常を對置しようとするものである。

⑤ 人共同体的秩序、その生活日常は、人疑似非暴力的日常とのきわめて根源的な関わりなくしては実現しない。なぜなら、我々は生れたときからすでに、ドップリと暴力的日常のなかに浸っており、その秩序のなかで生活意識を操作されるものとなつていく。

とすれば人非暴力としての生活空間——共同体は、反暴力的生活日常の争をばとあしめてのみ、はじめてつくられるものである。

⑥ 人日常生活のレベルで対峙していることの實踐的な一歩は、このようにして人反暴力的生活日常を、まづつくりだすことである。

そしてその人反暴力的生活日常を具體的に實現するはより目安は人直接行動の回復である。

（註）人疑似非暴力人直接行動などの用語とその定義は「現代暴力論ノート」（自連双書1）による。乞参照

⑦ いわゆる人政治的争は、我々の生活日常から突出した「非日常的

なものである。それゆえもしそれが永続するならば、たちまち我々の生活は破綻するだろう。占拠やバリケードが封鎖されたら一ヶ月はるか数日ともたないことは、如実にそれを物語っている。しかもそのような関わりをも放棄することなく、我々の生活日常のなかにとりこみ、そしてまた反暴力的生活日常を自己のものとするこの集約は、とりもなおさず人直接行動とその回復の視座である。

⑧ 杉原論文のもつとも主要な部分「補記」末尾の「政治的争が、このような生活日常次元の生活技術と事務レベルの、きわめて些少な部分から組みかえられ、新しい視座で見出されること、と新しい共同体の論理は深く結びついている。：生活身の微視的状況の要約によって人政治的日常生活をとらえなおし、つくり出すこと」は、人直接行動としてそれをとらえないかぎり、人暴力とはなりえないだろう。そして直接行動はまさに、我々の日常生活次元においてしか實現しえないものであり、なおかつすべて人反暴力的であることに對して、人政治的争を日常生活のレベルにするものとなるのである。

見えない共同体の意味

⑨ いまほど多く、若者たちが学生をやめ、またやめぬまでも職業を放棄して、心情的なランゾロと化したときは、かつてなかったのではなからうか。

70年代に入るまでもなく、求職を叩きながら諸セクトの闘争は、み

るみる力を失なつていき、その下
降は、いまもなおつづいてい
る。そしていつのまにか政治的意
義は、学生たちの胸に大きな空洞を
のこしてとおりすぎた。その空洞
には人さまざまな、自己幻滅・政
治不信・展望喪失・個人の閉鎖・
虚脱と怠惰・ヤケと居直り・など
幾層いながら、ルンプロ化または
ヒッピー的放浪の風潮を一般化し
たのである。

⑩ 共同体が、昨日までの政治闘
争急進主義にとつて代り、一種の
台言葉ともなつて若者たちに迎へ
られたのは、理由のないことでは
ない。

だがそれは、頁の空をうめる
ものとして、ともかく停滞から脱
出して動き出す以上のものとして
はなつていない。いま我々が求
めている巨大な政治的闘争力持
てていない、というのが、今日の
状況における共同体運動のすかし
である。

⑪ そのオ一の原因は、本来ルン
プロ化しつつ、なお学生意識をも
とめていける若者たちには、真の
意味でのハ日常Vが存在していな
かつたことにある(彼らにかつて
あつたのはハ過渡期Vであり、学
生生活は、生涯の中の特殊な、そ
れゆゑ、終りが見渡せるハ疑似的
ハ日常Vであつた)

しかつて、その共同体志向も
また、ほとんどにとつてハ旅Vの
一種に風化してしまつたことであ
る。オニには、ハ共同体Vをつ
くろうとする彼らのイメージは、
ほとんどハ自分らのVハ自分らに
よつてのVというだけを出ない。
達成のもの、どのようによつてな
る具体的にはほとんど明らかではな

い。(なぜ既成のものをかえていく
のでは悪いのか) オニに、彼らの
共同体づくりが、一時の便宜主義と
して、あるいは活動の名目としてと
らえられている。そこに生涯を定着
し、老年になるまで活動するとい
つた展望もふくめての、全的投企が
ほとんどみられない。

⑫ (ハ) かりにありうべき共同体を想定
して、その共同体を成ることを保証す
るものは、オニに、全員の生産労働
ハ創造活動Vが、無償の非金銭的
として行われていくこと。オニに、
男と女の関係ハより拡大しての人間
関係Vが、あらゆるいい秩序によつて
生れていくこと。オニに、老人・成
年・子供が存在として定着している
ことハ持続と循環性Vなどである。
そしてこれら三つの要件が、共同体
の日常生活の上に具現されているこ
とである。

しかも共同体が、ハ自らの自律性
や無権力、無国家性への定めるとき
権力の側にとつて由々しい問題とな
るVというときの、その革命的展望
を保障するものは、まさに共同体の
日常革命性である。

そしてそのハ日常革命Vを保障す
るものはハ直接行動Vにほかならず
そのことによつて共同体ハ反権力
反国家の根拠地Vとなり、政治的日
常に位置するハ共同体的秩序・生活
日常Vをつくることのできるのだ。

⑬ 共同体運動から、ハ日常Vま
はハ日常革命性Vをとり去つたと
それは合符であり、パーティを組ん
だ旅行であり、お祭り行事であり、
せいぜいワークキャンプでしかない。
そしてそれらに、日常性と政治闘
争としての力をもたらしものは、ハ
直接行動Vとしての複合である。

⑭ いま我々にとつての共同体運動
は、既成のもの、あるいはその概念
とくにその一定の形態を、たいそぎ
でまとのあげてしまふ必要はない。
むしろ存続を想像力と創造力によつ
て、さまざま命令と方法での試行
が必要であらう。そのことによつて

のみ、むしろ共同体ハ政治的闘争
カVをもつハ反権力、反国家運動V
となる。

いわゆるハ共同体Vが、革命運動
としての力をもたず、現実政治から
の逃避、あるいは傷つき破れた人た
ちの安住地化してしまつたのは――

① 共同体が戦後を通じて内戦をつくら
とするものであつたため日常生活の最前線存
在に問題が集中し、ハ状況主義にのちいつ
て大状況的論理把握が忘れられてしまつた。
② ハ体制的・市民社会的日常Vを拒否する
ことがハ共同体への脱出Vハ脱体制Vという
個人の一方的断絶でしかない。

③ 共同体を外部の政治社会から防衛する
ために、その窓口がオニに限定されハ脱政
治的閉鎖性Vハ自主的自覚性Vを志向する。
④ 共同体の成否は、成員内部の人間関係
に左右されることが多い。個人内面の競争
がオニとなりハ心情革命化Vする。(現代
星野力論ノート第7頁・72頁)



⑤ とすれば、いま我々がつとめて
目指さねばならぬハ共同体運動の方
向Vは、あきらかにかつての砂川反
戦運動や、いまの三里塚田結小屋・
野戦病院の機能を目的にしたハ根拠
地・生産拠・戦前基地としてゲリラ
作戦や補給・休息・待機の場として
のハ武装としてのハ共同体Vであり
南争の日常化・生活の日常化への拒
絶的複合である。

⑥ だが南争の現場は、遠い三里や
沖縄だけにあるのではない。自分を
とりまくハ政治的日常生活として常に
自己身辺にある。

日常生活次元におけるハ直接行動
Vは、それそのままハ政治的日
常闘争Vにらざるをえない。それは
かならずハ共同体志向Vの仲間によ
つて相互に支えられ、つよめられる
ものである。そこに成立しようとする
ハ共同体は、かたちをなす、また明確
なすがたをたつてあらわれないもの
のだらう。しかしまたそれは、ハ
見えないハ共同体Vとして――

「韓国入被爆者」

ヒロシマの証人

「孫振斗さんの場合」

六月七日、福岡高裁は孫振斗さんに對して、出入国管理令により徴役十ヶ月の判決を下した。これは、八原爆症の治療を目的としての密入国という申し立ては同情の余地があるとしているものの、佐賀地裁の原判決を支持したものだ。

× × ×

昨年の十二月三日、佐賀県串浦漁港で密航監視哨員の通報によつて十五人の韓国人が逮捕された。そしてその中に「広島で被爆したので、日本で治療するために密航した」と話す人がいた。この人が韓国人孫振斗さんであり、四十二年十月「韓国人被爆者の密航」として話題になった孫貴産さんの実兄である。

孫さんは広島島島局の工事現場で被爆している。お父さんは頭髪が全部抜け、顔から化膿していくという無惨なまき三年後に死亡。もちろん当時は薬など使えなかった。お母さんは自宅で、妹貴達さんは三菱の挺身隊で被爆するなどその一家は悲しみのつばに落ちたのだ。

× × ×

十二月十六日、「孫さん逮捕」の報を受けた広島市民の公は唐津署に医師を派遣し、緊密立合いのもとで孫さんを診察した。そして翌々日「被爆の事実」は明らかであり、症状を訴え、検査成績にも異常がある。本人の原爆症に対する不安を解決するためにも精密検査

を専門医によつて行うべきだとの診断結果を表した。

しかしその後六ヶ月というものの、手錠と縄は与えられこそすれ、孫さんの「治療要求」に何一つこたえるものはなかった。

「タス」の韓国

戦時中、植民地朝鮮から多くの人が連行されて来たのは周知の事実である。そして被爆当時、広島、長崎を合わせると十万人近くがいたと推定される。その半数は死亡し、残り半数が帰国あるいは在留という形をとっている。

韓国では医療行政はまだ当初歩的な段階であり、被爆者としての特別な扱い——日本における被爆者手帳等——は受けることができない。そればかりか原爆症に対する社会的認識はできておらず、問題として取り上げられだしたのは四、五年前というありさまだ。韓国が独立したの原爆

のお陰だ」という歴史観が普遍的な状況の中で、原爆病という表現が使われる。そして「伝言する」「奇型児が生まれる」等非科学的なうわさが流れており、在日被爆者以上に困難な生活を強いられるのが現状のようだ。

厚かった裁判所の壁

佐賀地裁公判において、検察側は(1)唐津日赤での診察の結果は、結核性であるが原爆症の疑いは薄いといることである。(2)孫さんは病人とは思えられず、(3)密航スローカーの疑いも覆る前科があるとの理由で徴役十ヶ月が相当と主張してきた。

そして熟知するにも、治療のためには正規の手続きを」との意見を付け加えた。入国、そして治療のためには相当の巨額と莫大な費用を要することは自明の理であり、さらに日本政府は原爆被害者のための入国は認めていない。

孫さんは最終陳述で次のように述べている。

「私は検察官からスローカーと言われましたが、そんなことは全然しておりません。私は原爆症の犠牲者でもあるし、母と一緒に治療もしてまいりました。現在一家はつばの中にあり、これは誰がしたのか。このことを十分考慮して下さい。」

この言葉は裏切られ佐賀地裁唐津支部は徴役十ヶ月の判決を下した。しかし孫さんはすぐに控訴の意思を明らかにし、舞合は唐津から福岡に移されることになった。その控訴意書は、(1)韓国国内においては原爆症治療はおろか、被爆体験を訴えること自体タスである現実の無視、(2)多くの朝鮮人がなぜ日本を被爆しなければならなかったのか？ この

奥の反省、考慮が全く欠落している。という二点を基にまとめられた。しかし福岡の風も冷たかった。裁判官は弁護側の三名の証人申請すら認めず審理を進めた。そしてその判決は国議に記した通りである。(金庫先公判対策委員会ニよる)

「二頁下段左端よりつづく」
「見えないう国体の意味」
最終的には、一般化され社会化されてきたあさうかにする、へ共同体社会への基盤である。

またさらに現時点において、すでに農村や偏地に点在する各種のへ見える共同体の存在に配慮するものである。

(注)へ自科行動についてはへ現代暴力論ノートオ大章を参照しよう

逆立ちした性

30歳 エロスとエトノスに對して

最初に書かれている「一夜の肌膚を濡め合う仲間を求めて、ある男と床を一緒にした」キャシーの行為は、大山氏の言うように、そんなに「自然で純粋なものだろうか。醒かに「北の地方」でのキャシーとその一夜の相手とは、「平等な性」を共有？したに違いない。「平等」にみゆめ、平等にすれば「性」を。一体どのようなものからどうして「真のコミュニケーション」が成立し得るのだろうか。

彼等は相互の了解の下に、相互に相手を自らの欲求の解消へ一時的解消の手段として利用したにすぎないのではない。彼女の恋愛は、未来の共同体社会における恋愛を先取りしたのではなく、すぐれて現代的で、疎外された状況の下でみられる恋愛にすぎないのではないだろうか。

動物的人間的

大山氏が言われるキャシーの自由な恋愛は「動物的なもの」だろうか。むしろそう思う。だが、すぐれて人間的な愛へ決して解放された愛とは言えない。なのではないか。逆に言えば占有関係としての恋愛を考へることの方が、むしろ「動物的なもの」とより強く結びついていると思う。

動物の性関係は自由どころか、不自由さわまりないものであり、占有的・所有の性関係である。それは才一義的に生殖本能に導かれ

た生理的欲求としてあるが故だ。

例えば、雄馬は雌馬をめぐって死に至る程の斗争をするという。チンパンジーやゴリラに至っては性関係を中心として「家」を構成する。つまり多くの種類の高等動物が、占有的・排他的性関係を結んでいるというのは、我々のまわりを見渡せば納得のいくことなのだ。

こういう見方からすれば大山氏の論理は逆立ちしていることになる。この性の占有・性を通じての相手の所有・関係は、マハト（カ）によって保持される。動物にあつては、それは端的なるケバルトであり、人間にあつては経済力である。そして人間におけるマハトたる経済力が男にある以上、女は男に所有される。だからこそ「どの程度まで人間の欲求が人間的欲求となったのか」ということが「男の女に対する関係の中に示される」のではないのだろうか。

観念による支配

「ゆきずりの人間同志が、一夜だけでも身体を濡め合うというセックス」は、人間のセックス以外の何物でもないだろう。そしてそのような「自由」な恋愛は、人間の観念——経済的社会的構造と相互依存の、なお基本的にはその構造を基礎として——の産物以外の何ものでもない。人間の性愛が、基本的に人間の持つ動物的生殖本能・種属保存本能に基づいていることを否定しようとは思わない。しかし同時に、その人間の性愛は観念の媒介を受け、支配されている、と思うのだ。

動物の性行動は単純そのものである。そしてそこでの快楽とは動物的本能の副産物であるにすぎない。人間は動物にとっての義務を快楽として、あるいは自らの孤獨感をいやすための手段として受け直し、セックスそのものを意識的に追求しているのではないだろうか。

そして現代人に性愛にとっては、この観念こそが生殖本能にとって代つてしまっているように思われる。ホモ・レスビアン等はその不幸な証明ではないのだろうか。

(卓南公英)

エロスとエトノス

性に關する30歳アンケートは非常に面白い一面があったので抄出する。(1)エロスとエトノスに對して……

「エロスは理論的には理解し得た。経験されてはいるが「エロス」を私自身持たなければ良いと思うが、大杉氏の件は心を考えると何のしりぞきもなく流入させたいみたい。」

「エロスは男の一人より。こんなものを書いている限り女への偏見は消えない。性は動物的やさしさと複雑さとは無関係。一人寝のさなさと故に異性の肌を求めベッドにもぐり込む、それだけだ。大山氏の性、愛には理性がつかまつっている。理性から逃れていなければならぬという理性に。」

「エロスは常に感じて自分の内と相反するものをやはり感じさせる。性とは性関係を結び、なおかつ……」

「今エロスは私が論議から関係を断つてしまふ。理論に思案であるためにそれは彼女を含めた関係を作っていかねばならぬでしようが、今エロスは全然気にはならない人々に見えるわけでもない。」

「今エロスは思想的には判るが許せない。しかし判ることはできない。なぜか？愛してゐるからでしよう。」

(3)性の結びつきは本質的に何が基調か。

これは男の愛の愛情がもっとも多かった。目立つたものとして、男は快楽・征服欲。女は孤獨感。一番解着例が少ないのは助産婦保存であったようだ。

「ごくあたり前の解着例だったようだが、性という非常に身やかた問題にあつて、エロスとエトノスの論議と理想の生活感情とのギャップは理論的に判るが……というのはいやうだ。それは感情を理論の前に屈服させねばならぬのか。両方ともエロシがあるのでは？ (文通、下条)

共同体 そのより 内なるもの

29号
内なる共同体
に寄せて

方向へ

同体の日常にぞつた、具体的かつ現実的な問題に対するラディカルな視点の提示である。その事を通じて、

創造の契機を予り者と、外部的には、セクト色を強め用鎖的になつて行く。

私が自連29号「内なる共同体」を読んでまず感じることは、現在の共同体志向の問題点を整理する作業はますます必要ではあるが、もう一歩踏み込んで、今それぞれが共同体がかかえている矛盾の中にぎりぎり身を置きながら、その矛盾の根は何であり、それをどう内側から破っていくか、ということに対する追求が欠けていることである。そのゆえに、苦しみが続いてこなかったため、筆者が否定的に分析したいくつかの共同体志向の、その風化現象ともいふべきものを、根底からつきとずすところまで達していないようである。

現在我々が具体化しようとする共同体というのは、決してユートピアでもなんでもなく、社会的、政治的矛盾のより裏腹したものではないという事実を、つまり、そこに見られる様々な矛盾に満ちた人間関係の中にこそ、我々がこれまで否定しようとしてきた政治の、権力の、官僚主義の原始的な形態が有るのだという事実を明らかにしなければならぬ。その上で、そういった体制に本質的に歯止めをかけうる集団の構造が、そして自立した個のイメージがさぐられねばならない。

X X X

たとえば、現在の共同体志向の限界性に対する「ぼくらの日常が政治状況の中にある限り……」という批判は、その批判する対象の存在なり生き方を揺り動かすに足るものでないばかりか、結局、状況としてある政治への近親か、嫌悪かという同一の回路を行きつ戻りつする結果となりはしないだろうか。

集団と個の問題に關していえば、しばしば、集団より個を大切にすると、か、個の主体性を何よりも重んずる、とかいう処し方で共同体の問題が片づいてしまつて考えている人達がいる。しかし、この視点は先程の問題に対して何ら歯止めにならないばかりか、問題の根をいっさい集団の構造に見ず、個人に帰してしまつてしまつて、そっくりそのまま官僚主義へ通じていく危険性すら持つてゐる。我々が共同体に身を置き、呻吟しながらつかみとつてきたことは、単に集団というものは、いつの間にかその一切台切が少数者の占有と化し、他の部分は、客体化して、多かれ少かれ制約を感じつつ、それを内側から破ろうとする気分を失い、その関係を固定化させてしまつ、という現象に対する認識であった。

二つの現象の前で私は何をすべきか。今のところ先達の次の言葉を自分に課すつもりだ、としかいえない。

「相識のあるところエネルギーは存在せず、エネルギーのあるところに相識が存在していない。」

……かかるとき、いやしくも創造を旨とする人間はいかにあるべきか、エネルギーの側に立つてそれこそ組織しようとするより手はないではないか。

「相識のあるところエネルギーは存在せず、エネルギーのあるところに相識が存在していない。」

今、共同体を志向する人達につきつけねばならないものは、抽象化された一般論ではなく、個別化

X X X

自由発行の難務をいかに具体的に分散してやるか。この点を当面の課題にしておこう。(下条)

編集室

自由発行の難務をいかに具体的に分散してやるか。この点を当面の課題にしておこう。(下条)

公署関係、労働組合等、なりと包括的な問題に對して、労働組合運動は如何に主体的闘争を進めることができないでいる。それは政黨の「指導部隊」として追求されてきた結果であり、労働者群を「網口」に捕獲できる企業別組合として追求されてきた結果としてある。

私達こそが労働者だ

既成の労働組合は、労働者と企業に閉鎖し、あつめる待遇改善の成果を自己宣伝し、中小零細企業の労働者の犠牲を要す。その連帯に援助するようにはしない。そのような状況の中で、中小零細企業の労働者は、健全な生活、豊かな連帯に絶望し、至小化

《農民化》のたぐひ

解放副読本「にんげん」をめぐって

大前副読本無償配布の解放教育副読本「にんげん」をめぐっての問題は、近連協定を底流にした沖縄県人「農民化」問題が「ロープ」を「こ」させた。それは沖縄差別に關する大前沖縄県人会と全国解放研究会及び部連解放同盟のとりえ方のちがいから起っている。

「にんげん」配布は、教育の機会均等、義務教育の無償の実現をめざす解放同盟の教育闘争の一つの成果といえる。解放同盟、同和問題研究会、府教委等の協力のもと解放教育研究会が自主編集した「にんげん」は、部連問題のほか被爆者問題、朝鮮人問題及び沖縄差別問題の因つてくるところのもの、明らかになっているものだ。

された自己完結へとあもむいた。それゆゑあるものは一家心中をしたりあるいは罪人という汚名をきねばならなかった。

私たちは労働運動全体が危機にひんしている現状を正確に判断し、圧倒的多数を占める中小零細企業の労働者が労働運動の frontline に結集するべく、新たな労働運動を提起する。一般合同労組は、「革命的サンシヨリズム組織」などといつていまいなものではない。明確な目標をもった現実的な方法なのだ。それは「一名の組合員を獲得する」に二つの企業を相手として、闘争を遂行していく「労働階級の成員なら誰でもあつても加入できる組合」なのだ。すなわちその地域に住み、労働する人間、そして最終的にはその家族をも組合員とするところの、労働者階級の連合組織であり、将来的には

ところが大前沖縄県人会（影響力約40人）が、又部連を擁護するものな

様やりを入れてきた。その主張と論旨は次の四点に収められた。
(1) 部連、朝鮮人などの問題として、沖縄問題を取り扱ふと誤解を招く。
(2) 副読本として使われると国民は沖縄が部落、朝鮮と同様というイメージを受ける。
(3) 沖縄の問題は農民族支配から発生したものであるから、別の角度から扱ふべきである。
(4) 県民生活は島の沖縄選出の国会議員の「にんげん」が教科書に使用されることに反対している。教育の主体はあくまでも国民にあり、国民が反対する教科書は使用してはならない。
これらの主張には、農民族支配、という沖縄問題の一面を強調するのと同時に、明治政府以来の本土政

地獄生産体連合をも準備するところの運動体なのだ。

そして究極においては「労働」ばかりではなく「生活」もまた組織される。このことが重要なのだ。この連帯は企業エッセンスの実践である公署を、そして「資本増殖のためには毒薬でも戦車でも」という資本エッセンスをも否定できるだろう。そして自己それを平和的で有益な産業へと転換できる可能性を持つ。

現在、公署などの資本エッセンスがあまりに抽象的に語られすぎる。その有関的な愚論と実践的に粉砕できる連帯組織こそ、一般合同労働組合なのである。

地域大衆、革命的エッセンスなとはどこかにがらさがっているものではない。私たちが、君たちこそが労働者なのであり、大衆なのだ。私たちは自分がいま、現在しているところから始めなければならない。

郡山一般合同労働組合準備委員会、エッセンスより

府による差別・抑圧体制、権力の分断支配という重大な側面を暴露した根本的な誤りをあかしている。つまり、「沖縄人は部落や朝鮮人は連つ」という差別意識に裏づけられた発言を強調することによって、「差別日本人」との幻想にはまりこんでいるのだ。
「このような間違ったことをされた一部県人の姿勢こそ、七二年本土復帰をひかえて、宮城の邦、沖縄県人は自派のうちに自らの努力によって本土との一体化に精力を傾けている」といふ「農民化」の先頭を切るものといふだろう。そして同時に、彼らは抑圧者としての立場をあますことなく自己暴露したといえる。
《にんげん》の花より

HOB通信 No.7

大阪府東淀川区 土庫町 東淀川中環

河内マツジウマ三益重工業主従

会に乗り込むの記／あるたのし

田、人殺し協同／東洋の白雲殿

おはけ台の山と山／宮村順一

さん

暮れひと

東淀川中環マツジウマ三益重工業主従

天皇の口と口／御親訪に抗議

する／白帝の政治的追憶記憶新

国会された帰国船の第一便が出航

／石油確保は日本人の「生命線か

金沢反戦市民会

金沢市私鉄通 金沢市私鉄通

三里塚反戦同盟村一作さん

言葉に「ぜひ三里塚に死なさい

というのを見たことがある。私達

はこの言葉を文字通り信じて、

ぜひ内難にいらつしやい」と叩

かける。それは金沢火口表電通建

設阻止のため勇敢で空砲強い活動

家の肉体が好きと言ふ期待を含

めてた。「国営主部」が建設され

いつも国の人々をきろつていま

す。金沢市私鉄通の横断歩

「内難青年ロジ会議」国営主部近

「同志の危機」の実像は、二に

ある／共同行動団「コミュニテ

ションを僕に



NO.4

神戸市東灘区北灘マツジウマ三益重工業主従

自己総括／社会復帰と社会適

の一般的問題／あらく／経通報告

／みょうが村見聞記の記

球根、種、苗、各種鉢物、山

のことならあつてくへ。「あらく

「建設の資金繰出のため園芸用品
を取り取っている。

滋賀、京都、大阪のいすれかに安

い貨店舗（花と園芸用）を求めてい

ます、御紹介下さい。

人間問題

通説 山梨県甲府市西田二丁目6-19

穴水町 長崎県長崎市 長崎

甲府大学会同人同日報編集長

生に対する人間の絶望や希望が、

人間の存在価値の発見に結びつき、

人間は、自己がやはり人間であつた

と自覚した時、人間らしく生きたい

とそこに生きることを目指してなん

らかの積極性を獲得するものである。

社会と国家とかの概念が見えて

くるのはこの期であると言えよう。

「人間問題」の創刊に寄せる討論

清水昭三より／人間問題という言葉

について／生保内篇／生きて社会の

ためになろうという考察／その一

長崎通説

「人間問題」の創刊に寄せる討論

金沢市私鉄通の横断歩

小中学校を建てよう。

「先生、おれら便所するのんい

やんで、女の子入、くるやろ、

ゆ、くりでいへん」と女の子。子

は口子であるべく男子のいる時を

見はかり、入るといふ。中学校で

男子兼用はいり込んではないだ

ろつか。夏はのぼり、冬は神経痛の

みこの中学校職員室は、倉庫用の部

屋である。普通の中学校でしゃべる

西で授業すれば、隣りの授業妨害に

なる同仕切りの教室というもので、

ひとつひとつ書けはまりがない。

ある先生いわく「学校までい

すわ」。

戦前、子供達が警察署長に石を投

げた結里徳風学校ができた。しか

戦後で廃止。戦後は大人の投石

36

年か一次金ヶ崎国争、愛隣会館と福

社センターは出来た。その愛隣会館

田、丘階に愛隣小中学校がつくれ

たのだ。そして10年間というもの回

一つ変っている。

吾が通学した小学校は、運動場は

なかったか？セミのなく青葉がどろ

んこの工が。電車に乗って行くやう

な所で運動会をこしらえたか？

愛隣学園の歴史は金ヶ崎の歴史で

ある。金ヶ崎の子供はその矛盾を一

身に受け、差別の中での教育これ

て来たと言える。金ヶ崎を理解する

ための必読書

学校の沿革／建設への思い／戸博

日共、金ヶ崎／金ヶ崎行動者と細

資本／金ヶ崎行動者の人権／金ヶ崎

の歴史

事務所全港湾国土地本建設支部

自由連合社気付に致す取扱います。

「人間問題」の創刊に寄せる討論

労働問題研究会

の田よりオ、オ、オ、田、田、田

から0.00まで、大阪市内で聞かれ

いる。2、1、1、1以降の日本労働運

動を主に研究し、賃金、労働条件、

産業構造の線にそって学習する予定。

現在は学生の升を行なわれ、労働

者の参加を期待している。

連絡先、自由連合社気付 川崎まで

「人間問題」の創刊に寄せる討論

大阪△研

（一）の大阪△研では従来の、現

に於いては、（一）の大阪△研

「人間問題」の創刊に寄せる討論

当面のTETとして大阪△研

政府主義の哲学、TET（大阪△研

現代思想社刊）を予定している。

連絡先、大阪市内区南波通（一）

新大阪ビル内、G社気付

大阪△研まで

下糸がある

X
X
X

そこでの対話は、例にたがわず
はんばの愚口であり、少々割引に
て聞かねばならないそれそれの自
慢話であつた。メシのことから、
資金のこと、ひいてはオカミこん
がススであるか否かが煙草の火を
つけるのもどかしい程に出てく
る。しかし一時気まづい雰囲気か
うす暗い物書きを支配した。それ
はへははのオヤジ（経営者）が
朝鮮人であることに端を発して
いる。

「アハハのオヤジは子ヨーセンや

X
X
X

そう言うのはさこんだった。自分
を「なまけ者やから」言言い下す
さんには、「竹かざるもの……」とい
うことは強制労働以外の何物でもない
のだらう。この場にあつては、「労働

ただ感じたことは、確かに、彼うは目に見えぬ糸で結ばれ、より其同体的心情の内に生きている、ということだった。

X
X
X

監督が仕事に出るよう催促に来た。言われてみるとなるほど雨は上つていた。突っ込んだ話をさへさげられ、仕事に出るのは心残りがした。時計を見るととう十一時を過ぎてゐる。

今日一日を終えると明白歸れる、
 と思うとまんごうでもない。昏と昏
 ×シまで時間をつぶすつもりでゆゝ
 くりと體を上げ足を運んだ。(つづく)